

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年8月15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690300043号
法人名	有限会社三井・メディックス
事業所名	グループホーム新川
所在地	鹿児島県鹿屋市新川町5385番地1 (電話) 0994-40-5750
自己評価作成日	平成 22 年 5 月 24 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaken-shakyo.jp/kohyo
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成 22 年 8 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームを利用される大部分の方は、身体機能も低下し身体面への介助が必要な中で生活をしています。その中で、家事の面では小鉢へ盛り付ける、お茶を注ぐ、食べた後の食器をお盆へ片付けるなど、一部分でも利用者様が参加できるよう、一人ひとりの機能を考えながらさりげなく勧めていくことを心がけています。また、残された機能が今後も保てる様に、介護スタッフが一緒に出来るリハビリを続けたり、食事を味わい楽しみを維持する為の口腔ケア、機能維持のマッサージや歯科医の協力の下、アドバイスを受ける、利用者様の口腔チェックを継続しています。他にも介護スタッフ一人ひとりを中心とする委員会を設置し、利用者様の暮らしが満足し、いつまでも笑顔が耐えない暮らしを意識して取り組むことを日々心がけるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・家族等への報告として「ホーム便り」と「今月の様子」があり、食事・排泄・入浴・リハビリ・睡眠・医療受診など細かな報告を行い、家族等からよるこばれている。
- ・シルバー人材センターを活用し人材の確保をして、職員は利用者によりゆったりとかかわれる体制をつくり、毎日の入浴支援など業務専念できるようにしている。
- ・家族や運営推進会議時に「年間ケア計画表」や「外出支援状況」を報告し、よりよい支援に取り組んでいる。
- ・管理者や職員は、毎月学習会を開催したり、他事業所とも情報交換をするなど研鑽意欲が高く、利用者へのサービスの質向上を目指している。
- ・地域住民との協力関係が築かれており、地域行事への参加やボランティアの訪問等があり、地域交流が充実している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域の中で笑顔で満足あきらめない」を理念とし、利用者様が出来ることに注目する。その中で、工夫次第では改善できそうなど（排泄スタイル、食事摂取量や状況、機能低下防止など）を全体で検討し、取り組んでいます。利用者様の暮らしに変化が見られたり、家族の笑顔が見られることで、私達スタッフも取り組んだことを自信を持つ、満足することにつながる事を、小さなことでも諦めずに関わることを大事にしています。	グループホームの意義と役割・地域で暮らし続けるための理念を作成し、日々取り組んでいる。会議録に理念を明記し、確認し合い、振り返りの機会としている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会長に相談し、「特別会員」として町内会へ加入し加入している。地域の情報を届けてもらうことで、利用者様も地域の催しなど出る機会になる。また、町内で実施している田植え見学に声をかけてもらうことや、中学校の体験学習への協力をしている。	特別会員として町内会に属しており、地域の情報や協力体制に繋がっている。地域の行事へ参加したり、ボランティアの訪問や、散歩時の地域住民との交流等もあり馴染みの関係ができています。中学生の体験学習の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	中学校の体験学習で、生徒に認知症やグループホームの取り組みなど紹介している。また、運営推進会議の議題に、利用者様の生活の様子など紹介することで、少しずつ理解されてきていると思う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、市担当職員と地域包括スタッフが交互にこられ、感染予防など色々情報と頂いている。又他の会メンバーからも、地域の情報や災害発生時の対応など意見を多く頂くことで、ホームの活動に役立っている。	会議は、行事や運営の年間計画の報告や反省・外出支援状況などを報告し、意見や問題点の提起をもらっている。避難通路の段差解消のため、スロープに改善するなど、会議が運営に反映されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議に参加してもらいホーム内の取り組みの様子など報告している。また、事業所内で判断が難しいことなどメールなどでも相談をする事もおおくある。	行政窓口へ出かけ、ホーム通信を持参したり、利用者の状況報告やサービスについて相談している。またメールで助言等ももらっている。市主催の学習会に参加し良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	新しく入職したスタッフに対し、身体拘束「不拘束」について、資料を準備し説明している。また、学習会や月1回のミーティングの中で、事例などを通して学ぶ機会を維持している。	定期的に身体拘束廃止委員会を行い「禁止となる具体的な行為」を繰り返し確認している。市主催の学習会にも参加している。ダメという言葉の排除に努め、身体拘束のないケアの支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新しく入職したスタッフに対し、高齢者虐待防止法について、資料を準備し説明している。また、学習会や月1回のミーティングの中で、事例などを通して学ぶ機会を維持している。市主催の学習会に参加する事もあった。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	鹿屋市社会福祉協議会の事業に「福祉サービス利用支援事業」があり、当ホーム入所中の利用者様利用料金の支払いや、通帳管理などサポートしていただいている。平成22年度の学習会の計画に入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は、ご家族に時間を作っ ていただき、ホーム内のサービ ス内容や、事故(緊急時)発生時 の対応など説明をさせていただ き家族が理解していただいた上 で契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者 や職員並びに外部者へ表せる機会を設 け、それらを運営に反映させている。	ご家族がホームへ来訪した際は、普段の様子 を知らせたり、スタッフも気軽に話せる関係 づくりを努めている。又、利用者様が普段の 生活の中で、「したいこと・してほしいこ と」「してほしくないこと」を誰にでも話せ る関係を作るようにしている。その中で、意 見や要望があるときは、申し送りやミーテ ィング等で検討するようにしている。	ホーム便りや個別の報告・通信・モ ニタリング等で本人や家族の意見や 要望等を引き出せる環境作りを心が けている。要望等は申し送り時や ミーティング等で話し合い、運営に 活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員 の意見や提案を聞く機会を設け、反映さ せている。	1回/月のミーティング内で検討す る内容を確認したり、意見を出しや すい環境を作るようにしている。	職員会議やミーティングで、年間計 画の遂行と反省・改善等について話 し合っている。日常的に、職員から の意見を聞き意見交換を行い、運営 やケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や 実績、勤務状況を把握し、給与水準、労 働時間、やりがいなど、各自が向上心 を持って働けるよう職場環境・条件の整備 に努めている。	業務の中でスタッフが負担となっ ていることで、改善できることがあれ ば、代表者に相談したり、反対に代 表者等から提案があったりと働きや すくやりがいを感ぜられる職場つく りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>1回/月に学習会を開催している。年度末に1年の学習項目計画を立て実施している。学習会のスタイルも、一方的に説明するのではなく、スタッフ間で意見を出したり、お互いに教える場面を多く作るようにしている。また、ホーム外の研修会も積極的に参加するようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>1回/月の学習会は、同法人のグループホームスタッフと合同で実施している。お互いに、情報を交換したりする機会もある。また、大隅地区グループホーム協議会研修などで他の事情所とも情報交換をする機会も多くある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所を決定する前に面談を行い、家族や利用者本人が置かれている環境や身体的な状況を伺い、生活に対する不安など確認している。また、ホーム内の取り組みや家族、本人の要望も伺い対応できること、家族に協力や理解していただきたいことなど話し合う機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族が困っていることや、新しい環境で本人が暮らすことについて不安に感じていることが無いのか、伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込みの相談時も、現在の本人の状況や生活環境、サービスの利用状況、サポート体制など伺い、入所以外のサービスについての情報も提示できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の生活の中で、利用者様より、作法について教えて頂いたり、スタッフと一緒に配膳や洗濯物を畳んだりする機会も多くある。スタッフは、利用者様を人生の先輩で色々な考えこれまで得た知識など教えていただく機会を意識して持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子やホーム内の取り組みを詳細に伝えることで、ご家族も利用様の普段の様子やスタッフの取り組みを理解していただき、本人の受診支援や相談支援など一緒に関わる機会もある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が生活していた地域に出かけ、近所で顔なじみとなっていた方に会って話をする機会を維持したり、ホームにご家族以外でも気軽に会いに来てもらえるように努めている。	利用者の希望に応じて自宅訪問や隣接の通所事業所に出かけたり、ホーム行事に知人や身内を招待するなど、交流の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士でお互いの想いを相談したり、聞いたりする関係がある。利用者様の中には、気が合わないときもあるので、スタッフは利用者様間の人間関係を把握し、調整役となって支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方(ご家族)でも、これまでと変わらず気軽に来ていただけるように、相談に応じたりすることもある。当事業所を利用されたことで縁があり、その関係を今後も大事にしていきたいと考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりで、利用者様の考えや、本音を表現してもらえるようにゆっくり関わるようにしている。うまく言葉や内容を伝えにく方もいるので、その時のケアに対する表情や言葉などの反応を受け止めて、利用者様の立場で考えるようにしている。	利用者の生活歴や家族等からの情報を聞いたり、利用者の表情や動作・言葉から察知するようにしている。得られた情報は職員間で共有し、思いや意向に答えられるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用を開始する前に、生活背景など情報をご家族や本人より伺うようにしている。また、サービス利用後も普段のコミュニケーションから新たな情報が得られ事も多くある。その中で、ホームの暮らしに反映できることは、ご家族やスタッフ間でも検討したりする事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターンを把握し、その方に合わせている。また、水分摂取量や排泄時間、回数など記録を残し、体調など変化がないか確認できるようにしている。利用者様の身体状況に合わせて機能低下予防のために、出来る動作、掴まえたりすると出来るような動作など検討し実施している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が望む暮らし、満足や充実できる暮らしを意識して、ご家族の意見や、スタッフ間で日々のケアの中で気づいたことなど計画に反映するようにしている。モニタリングは、利用者様の担当者を中心に実施するようにしている。また、状況に応じ、計画を変更する事もある。	本人や家族の意向を確認し、3ヶ月毎に職員全員で、一人ひとりの介護計画の見直しや支援方法について、カンファレンスを行い、本人や家族の要望が反映されたプランを作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の形式があり、ケアや利用者様とのかかわりの中で、楽しめている活動、他者とのかかわりの様子、ご家族の面会時の様子など記録に残すようにしている。その中で、利用者様の反応について背景や原因など記録し、そのことについて方法なども記入している。また、個人記録に計画書も入れており、サービス内容や目標に近づいているか、変更はないかを意識するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療体制を活かし、長期入院による利用者様本人への負担を最小限に出来るよう、ご家族とも話し合いを行い対応している。今後も、ご家族や利用者様の状況に応じ出来る支援を維持していきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、町内会長や民生委員、消防分団の参加もあり、利用者様が安全に地域の中で生活続けることを一緒にサポートしていただいている。ホーム周辺を利用者様と一緒に散歩に出かけることで、地域の方とも顔馴染みとなり、声をかけていただく事も多い。また、ボランティアの方もホームに来て、踊りや歌など披露する事もある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療の協力機関はあるが、利用者様が元々かかっていた病院へ定期受診等の支援を継続している。受診の様子や検査結果など、ご家族に「今月の様子」に詳細を記載しお知らせしている。	本人や家族等の希望するかかりつけ医の受診の継続を支援している。訪問看護・医療連携体制など、健康管理体制が整っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師をホームに配置し、24時間連絡体制を確保している。利用者様の状態変化があれば、看護師へ連絡し相談や対応を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による環境変化のダメージを最小限に留めるよう、主治医等と相談や調整を行い、早期退院が出来るように努めている。ホームの中でも、安心して必要な医療が継続できるように、訪問看護や当ホーム看護師による支援を継続している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り体制があり、ご家族やホームスタッフと話し合いを重ね、利用者様にとって安心できる環境を整えるように努めている。	重度化や終末期について「重度化した場合に於ける対応に係る指針」があり、家族から確認印をもらっている。家族等や主治医・看護師と話し合いを行い、職員も指針を共有している。看取りの事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルや、連絡体制を整えている。また、救急手当て初期対応の学習会や研修にも積極的に参加し、緊急時の対応が冷静に判断、対応ができるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害対策のマニュアルがあり、職員へ周知すると共に、年2回防火訓練を消防分団や消防組合の方に協力を頂実施している。</p>	<p>消防署の指導のもと、火災・地震・風水害を含む防火訓練をしている。毎月、火災通報や避難経路・避難場所・居室入り口のプレート表示の確認など、訓練手順を確認している。地域住民の協力体制もできている。災害時の備蓄もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者様の秘密保持、個人情報の保護に関し入職時に誓約書を事業主体と交わしている。また、学習会でも個人情報や倫理としてプライバシーの確保について学ぶ機会を維持している。日常のケアの中で、トイレのカーテンを閉めるなどプライバシーに対する配慮を意識して関わっている。	職員の意識向上を図るため、年間計画で、尊厳に対するケアのあり方を勉強会の課題にしている。利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけやカーテン設置などの対応に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のかかわりの中で、一人ひとりの思いや希望を把握するように努めている。思いをうまく表現できない方についても、表情や反応を理解し対応できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で、利用者様が興味を示す活動を継続できるようにしている。散歩や新聞、昔話などの読み聞かせ、地域へ出かけることなど実施している。また、職員は利用者様一人ひとりの生活ペースを把握し、その方に応じてゆっくり対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	一人ひとりの状況に応じ、洗面が一人で出来るよう、物品の配置を工夫している。利用者様が、髪型に気をつけるため、くしをさりげなく手元に準備したり、近くの美容室の方の協力を頂、定期定期にカットなど実施している。服装を選ぶことが難しい場面もあるが、夜は寝巻に着替え、起床時は季節に応じた衣服に更衣を手伝うことを続けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好に応じて、メニューも個別に準備している。食事の準備に利用者様も参加してもらえよう、小鉢の盛り付け、お茶の準備、片付けなど少しでも関わることを意識している。	利用者に嗜好を聞いて、個別のメニューを作ることもある。職員と一緒に食事の準備を座ったままでできる事やお茶の準備などをして、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取状況、量を記録に残し、摂取量が少ない方の原因など職員間で検討し、その方が食べやすい物、食べたいと感じるものを提供できるように努めている。カロリーが不足している方には、栄養サポート飲料やゼリーなど勧め、栄養バランスが大きく崩れないように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内の清掃を継続できるように声かけをしているが、利用者様も口腔ケアが習慣となっており、自ら洗面所へ行き、義歯の洗浄、嗽をしている。昼食後は、口腔内の観察と、機能維持のために、モアブラシを伝いマッサージを実施している。また、週1回口腔内の観察した内容を記録に残し、歯科衛生士のケアチェック時に一緒に状況確認を行い、必要なアドバイスを受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に排泄記録を残し、一人ひとりの排泄パターンを把握するように努めている。トイレに行くことで、排泄行為が維持できる方も多く、その方の状態に合わせて、尿取りパットの種類を選択したり、排泄委員会を設置し、パットの検討や、排泄のサポート内容を定期定期に検討するようにしている。	排泄委員会を設けたり、ミーティングで各担当者より、パット使用の工夫や一人ひとりの力や排泄パターンを把握している。また声かけや排泄の介助を心がけ、排泄の自立にむけた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘防止に、起床時に牛乳を勧めたり、オリゴ糖を飲物に入れて勧めたり、下剤だけに頼らず自然に排泄で着る事を検討しながら対応している。また、適度な運動を維持する為に、毎朝運動を実施したり、個別にリハビリなど一緒に実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日入浴してもらう。入浴が楽しみの方もおり、早めに声をかけ、ゆっくり入ってもらう。入浴が億劫になっている方もいる為、入浴できない日が続かないように、声かけも工夫し、利用者様が「入ろうかな？」と思えるように工夫している。身体機能が低下した方も、ゆっくり浴槽に浸かることが出来るように、リフトを設置し安全にゆっくり入ることを続けている。	午後から毎日入浴の支援をしている。身体状況に合わせた入浴支援を行い、ゆっくり浴槽に入っている。入浴は、利用者にとって、毎日の楽しみのひとつになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はぐっすり休めるよう、日中の活動を維持したり、散歩やテラスで外気に触れる機会を維持している。利用者様の状況に合わせて、日中は休息する時間を設けたり、一人ひとりのペースに合わせた対応を意識しサポートしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「服薬管理表」を個別に準備し、利用者様が服用している薬の内容や、副作用など確認をしている。新しく追加された薬についても、職員間で情報を伝達し把握するようにしている。服薬ミスを防止するため、服薬担当を決めて、個人記録にサインをしたり、服薬管理の手順やルールを作っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間行事計画を立て、外出や誕生日会など実施している。一人ひとりの状態に応じ、洗濯物を畳む、買い物に出かける、食事の盛り付け、お茶の準備など部分的ではあるが、関わることを維持している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気やその方の体調など考慮し、ホーム周辺の散歩、地元へドライブに出かけたり、買い物に出かける機会を維持している。地域の行事にも声をかけてもらい、田植えの見学に行き、利用者様の移動など手伝っていただく事もある。	ホーム周辺の散歩や近くの公園・施設に出かけたり、ウッドデッキや芝生で、戸外の陽差しや季節の風を感じている。その他、買い物・ドライブ・地域行事の見学・遠足・花見など、外出の機会を工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を個人で管理し、使うことはないが、購入してもらいたいものを職員へ伝えたりすることがある。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご家族が遠方に住んでいる方もおり、「新川便り」で最近の様子など伝えることを維持している。ご家族より、手紙が届いたり、電話が来る事も会い、会話がしやすいように補聴器を使用してもらったり、文字を読みやすくする為に眼鏡を準備して薬書など手渡すようにしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者様個別に箸と、湯飲みを決めなじみのある者を維持している。トイレやゴミ箱などの匂いにも配慮し、換気をこまめにしたり、芳香剤や新聞紙で汚物を包み廃棄することを実施している。鏡をみて、混乱する方もいるので、ロールカーテンを取り付け混乱しないように閉めたり、他の利用者様が鏡を見るとき開ける等、一人ひとりに応じて対応するように努めている。</p>	<p>天窓からの間接採光・換気・温湿度・音などの配慮が行き届いている。季節の花や手作りの工作物が飾られ、生活感あふれる居心地のよい共用空間である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テレビ前には、ソファを配置しゆっくりくつろいでもらっている。利用者様の中には、座る場所が決まっている事もあり、トラブルにならないように職員も配慮している。利用者様同士、一緒に和室に腰掛け、地元の話や家族の事を話す場面もある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所する際は、出来るだけ使い慣れた品物を持ち込んでもらうことをご家族に説明している。入所後、生活していく中で、なじみの品も増え、利用者様も自分の部屋であることを認識している。</p>	<p>タンス・飾り棚・ラジオ・亡き家族の写真・ぬいぐるみ・時計・行事毎の作品・温湿度計などがある。視覚障害の利用者には、ベッドをふたつ合わせて使用できるよう、それぞれ個性的な居室作りで、居心地よく過ごせるよう配慮している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室やトイレは利用者が分かりやすく、目印や文字を活用している。利用者様個人に応じ、その方が自分の力で出来ることを職員も一緒に考え、移動や移乗の方法を検討する事もある。「出来ること、出来そうなこと」を少しでも維持したり増やすことを意識した支援に努めている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない